報道関係各位

令和４年（2022）１月６日

特別展「日本美術をひも解く―皇室、美の玉手箱」2022年８月、開催決定！

謹啓 時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、東京藝術大学、宮内庁、読売新聞社は、特別展「日本美術をひも解く―皇室、美の玉手箱」を、令和４年（2022）年８月６日（土）～９月25日（日）にかけて、開催する運びとなりました。

本展は、皇室に伝えられた品々を収蔵する宮内庁三の丸尚蔵館の名品、優品約90件で日本美術をわかりやすく紹介します。多種多彩な作品による「美の玉手箱」のひもを解きほぐし、楽しくご覧いただきます。

人々を惹きつける魅力的な作品は、後世に残すべきものとして様々な人達に大切に守られ、日本美術の歴史が語られてきました。その中で、代々日本の文化の中心に位置して美術を保護、奨励してきた皇室が伝えてきた多くの優品は特筆すべき重要な存在です。

また、日本の美術史を最初に体系的にまとめたのが、1890年の東京美術学校（現 東京藝術大学）における岡倉天心が行った日本美術史の講義とされています。

そこで、今回、両者のコラボによる本展では、美術の理解を深めるという原点に立ち返り、鑑賞者が最初に見る、作品の形やモチーフに焦点をあてます。

国宝　動植綵絵　向日葵雄鶏図
伊藤若冲筆　江戸時代　宝暦９年(1759)
宮内庁三の丸尚蔵館蔵
【展示期間】８月30日（火）～９月25日（日）

さらに本展では、昨年宮内庁三の丸尚蔵館の収蔵品として、初めて国宝に指定された５件の作品―平安時代三跡の一人・小野道風の「屏風土代」、鎌倉時代の名品･やまと絵の集大成として名高い絵巻「春日権現験記絵」と元寇の様子を描いた絵巻「蒙古襲来絵詞」、安土桃山時代を代表する狩野永徳筆「唐獅子図屏風」、江戸時代の絵師・伊藤若冲の代表作「動植綵絵」を、揃って公開する初の機会となります。「動植綵絵」は10幅（芍薬群蝶図、梅花小禽図、向日葵雄鶏図、紫陽花双鶏図、老松白鶏図、芦鷺図、蓮池遊魚図、桃花小禽図、池辺群虫図、芦雁図）をまとめて鑑賞いただけます。

なお、本展は日本の美を未来に伝えるため、文化庁、宮内庁、読売新聞社が取り組む「紡ぐプロジェクト」の一環として開催いたします。

謹白

※詳細なプレスリリースにつきましては、2022年４月以降に改めてご案内させていただきます。
※会期中、作品の展示替えおよび巻替えがあります。

開　催　概　要

１．名　　称	特別展「日本美術をひも解く―皇室、美の玉手箱」
２．会　　期	令和４年（2022）８月６日（土）～９月25日（日）※月曜休館、ただし９月19日（祝）は開館
３．開館時間	午前10時～午後５時
４．会　　場	東京藝術大学大学美術館（台東区・上野公園）
５．主　　催	東京藝術大学、宮内庁、読売新聞社
６．特別協力	文化庁

《本件に関するお問合せ先》
特別展「日本美術をひも解く―皇室、美の玉手箱」広報事務局　担当：池袋・平野・大山
TEL：03-6821-8808　FAX：03-6821-8869　E-mail：tamatebako2022@ypcpr.com